はじめましての
淡 路 瓦

淡路瓦工業組合
〒656-0332兵庫県南あわじ市湊134
TEL:0799-38-0570
FAX:0799-37-2030
http://www.a-kawara.jp/

瓦組合冊子B5_1022.indd 1-2
平成27/10/24 21:15

はじめましての淡路瓦。

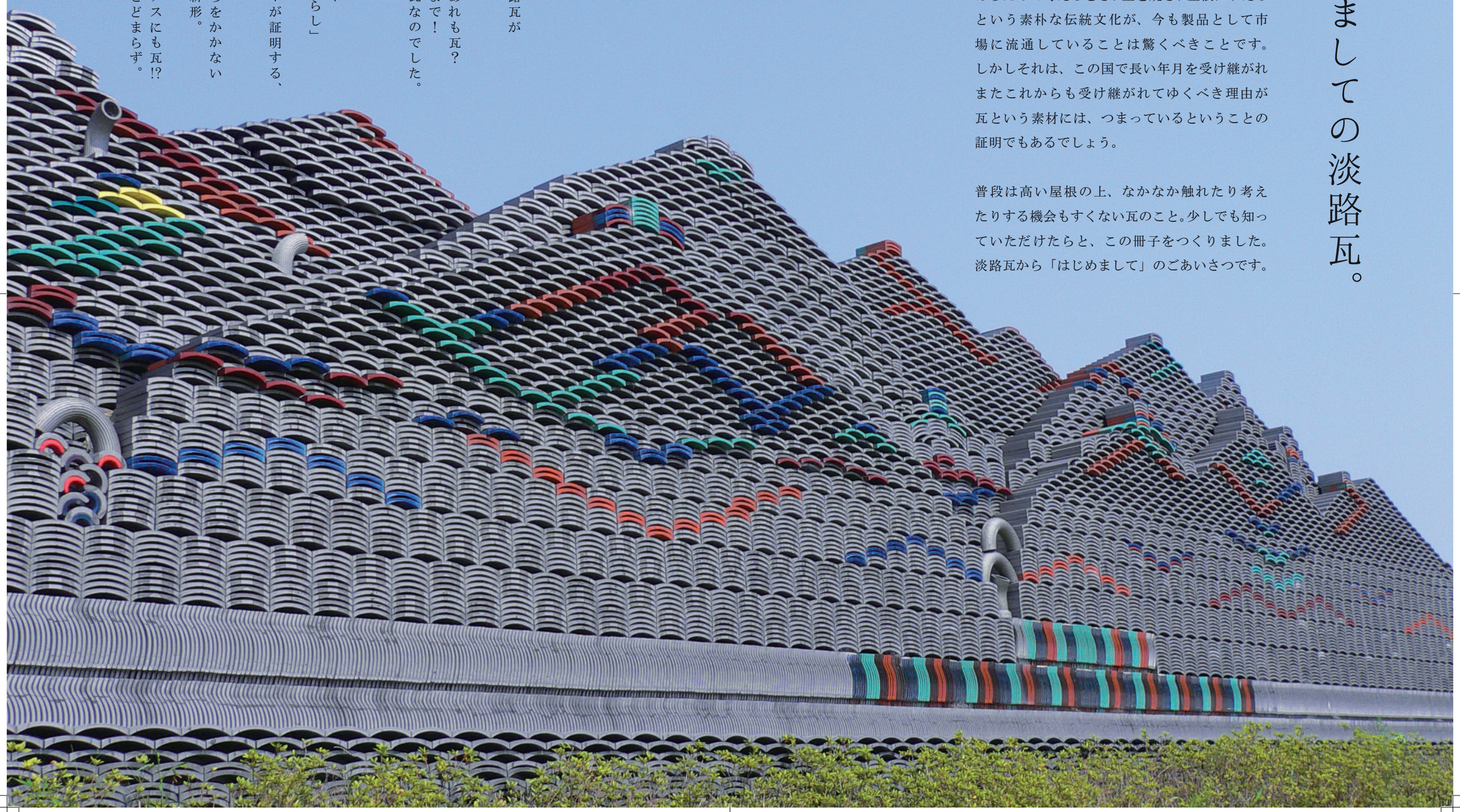
兵庫県・淡路島は瓦の一大産地。
４００年の昔から、とぎれることなく今も瓦をつくり続けています。

あらためて考えるとき、土を焼き、屋根にすえるという素朴な伝統文化が、今も製品として市場に流通していることは驚くべきことです。しかしそれは、この国で長い年月を受け継がれまたこれからも受け継がれてゆくべき理由が瓦という素材には、つまっているということの証明でもあるでしょう。

普段は高い屋根の上、なかなか触れたり考えたりする機会もすくない瓦のこと。少しでも知っていただけたらと、この冊子をつくりました。淡路瓦から「はじめまして」のごあいさつです。

目次

3　1枚の、淡路瓦がかたるもの。
5　これも瓦？あれも瓦？神戸異人館まで！すべて淡路瓦なのでした。
7　火入れ式
9　インタビュー「瓦のある暮らし」
11　瓦コースターが証明する、瓦の調湿力。
12　伝統にあぐらをかかない淡路瓦の最新形。
13　スターバックスにも瓦!?瓦は屋根にとどまらず。



瓦組合冊子B5_1022.indd 1-2　平成27/10/24 21:15

瓦は、人類史上最高の屋根素材である。

1枚の、淡路瓦がかたるもの。

屋根にふかれた
1枚の淡路瓦。
その向こうには、
はるか3000年の
歴史が広がっていました。

「瓦のはじまり」

普段はなかなか触れることも、考えてみる機会もすくないけれど、私たちの暮らしをずっと守りつづけてきた瓦。

そんな瓦がいつ、どこで生まれたのか。実はまだはっきりとはわかっていませんが、少なくとも今から3000年前頃にはヨーロッパと中国で、屋根に粘土を焼いた瓦を葺くということが始まっていたようです。

人類が自然の力から身を守るためつくりあげた家屋。屋根はいわば建物の傘。雨や熱を通してもいけないし、高いところにあるのでかんたんに壊れてしまっても困ります。そんなことを昔の人たちはさまざまに試行錯誤したのだろうと思います。

強い素材をもとめてゆくうち、やがて人々は「土をかたちづくって、焼きしめる」という方法を発見しました。「焼き物は人類最大の発明のひとつ」ともいわれるのは、粘土を焼くというきわめてシンプルな方法が、実は金属やセメント、プラスチックなどよりも強いものを生み出すことからです。土を焼きしめた瓦は、数十年ではほとんど劣化しません。

そうして生まれた瓦は、ヨーロッパ諸国、中国、韓国、東南アジア、そして日本までに広がり、その土地土地の気候や文化にあわせて柔軟に変化してゆきました。現在も、世界中のあちこちにさまざまなかたちの瓦を見ることができます。

瓦文化が日本にやってきたのは1420年前。仏教とともに、寺院建築の技術として伝わったそうです。奈良・元興寺には、なんとその当時の瓦がいまだ現役で使われていて、1400年近い時を経てもなお建造物を守り続ける、瓦という素材の強さを証明しつづけています。

「淡路島の土は、瓦をつくるために用意された土。」

淡路島の瓦づくりは1610年、新しいお城を建てることをきっかけに始まったと伝えられています。

この頃はまだ、瓦はお城や仏閣など権威のためのものでした。その後、数十年をかけてこの技術が島内に伝わっていったようです。

瓦づくりには、何をおいても土がいちばん大事、といわれます。

淡路島の粘土は「なめ土」と呼ばれ、粒子がとても細かいために、可塑性（粘土をかたちづくりやすい）や収縮率（焼いた際の縮みが少ない）という点で、上質な瓦をつくる条件がそろっていました。

淡路島自慢の「いぶし瓦」（表面に炭素膜で天然のコーティングを施す、伝統的な銀色の瓦）づくりにも、この土はうってつけの原土でした。窯の中でいぶしをかける温度と、最高の強度を実現する焼き上げの温度が奇跡的に一致しているのです。そして誰の目にも明らかなのは、淡路島の土で焼き上げた、いぶし瓦の発色の美しさ。

「白さえ」といわれるこの輝きの美しさは、最高級のいぶし瓦の代名詞となっています。

この島で瓦づくりが栄えた理由は、土だけではありません。江戸時代に瓦が徐々に民衆のものとしても普及するようになると、瓦のように重たいものを運ぶのには海路が便利だった時代、海に面した島の地の利を活かし、淡路島の瓦は島内だけでなく京阪神都市の屋根素材の供給元を担っていたようです。

土と海という豊かな島の恩恵、そして丹念な人の気質が淡路島の瓦づくりを支えてきました。

そして、その伝統は今も一日一日と受け継がれつづけています。

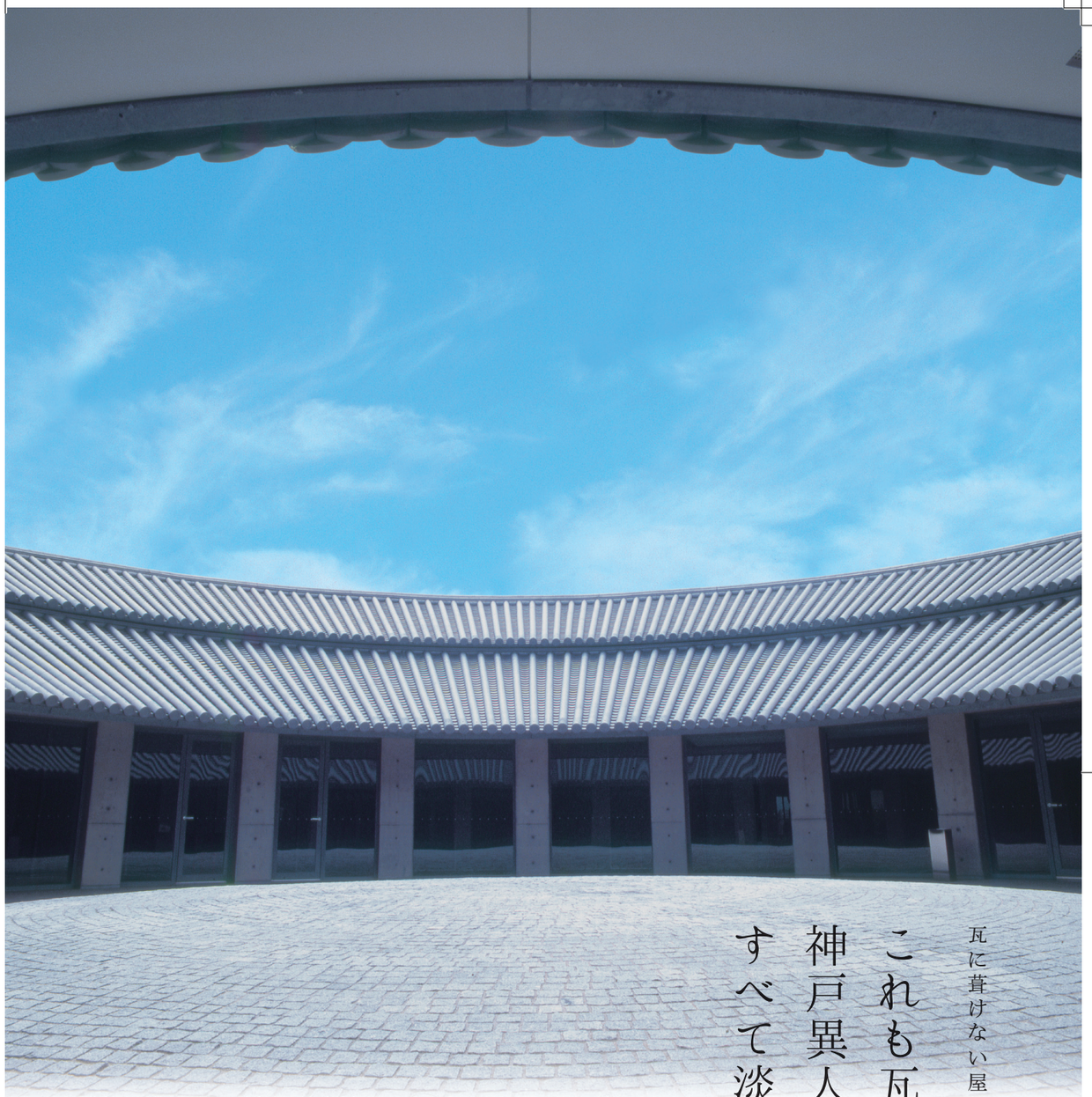
淡路島の土と海という
豊かな島の恩恵、
そして、丹念な人の気質。

荷積みの様子（昭和35年）

瓦組合冊子B5_1022.indd 3-4 平成27/10/24 21:15

瓦に葺けない屋根はない。

これも瓦？あれも瓦？神戸異人館まで！すべて淡路瓦なのでした。



「夢舞台国際会議場」（兵庫県淡路市）

フランス館（兵庫県神戸市）

北野美術館（兵庫県神戸市）

南あわじ市文化体育館「元気の森ホール」（兵庫県南あわじ市）

津名高等学校（兵庫県淡路市）

音戸市民センター（広島県呉市）

伝統的な和建築はもちろん、洋風住宅、美術館、公共施設。実は神戸異人館の屋根にも！淡路瓦が葺かれています。

瓦はそもそも、同じものは2つとしてない、建築の屋根を融通無下にカバーすることを前提としてはぐくまれてきたオーダーメイド文化。

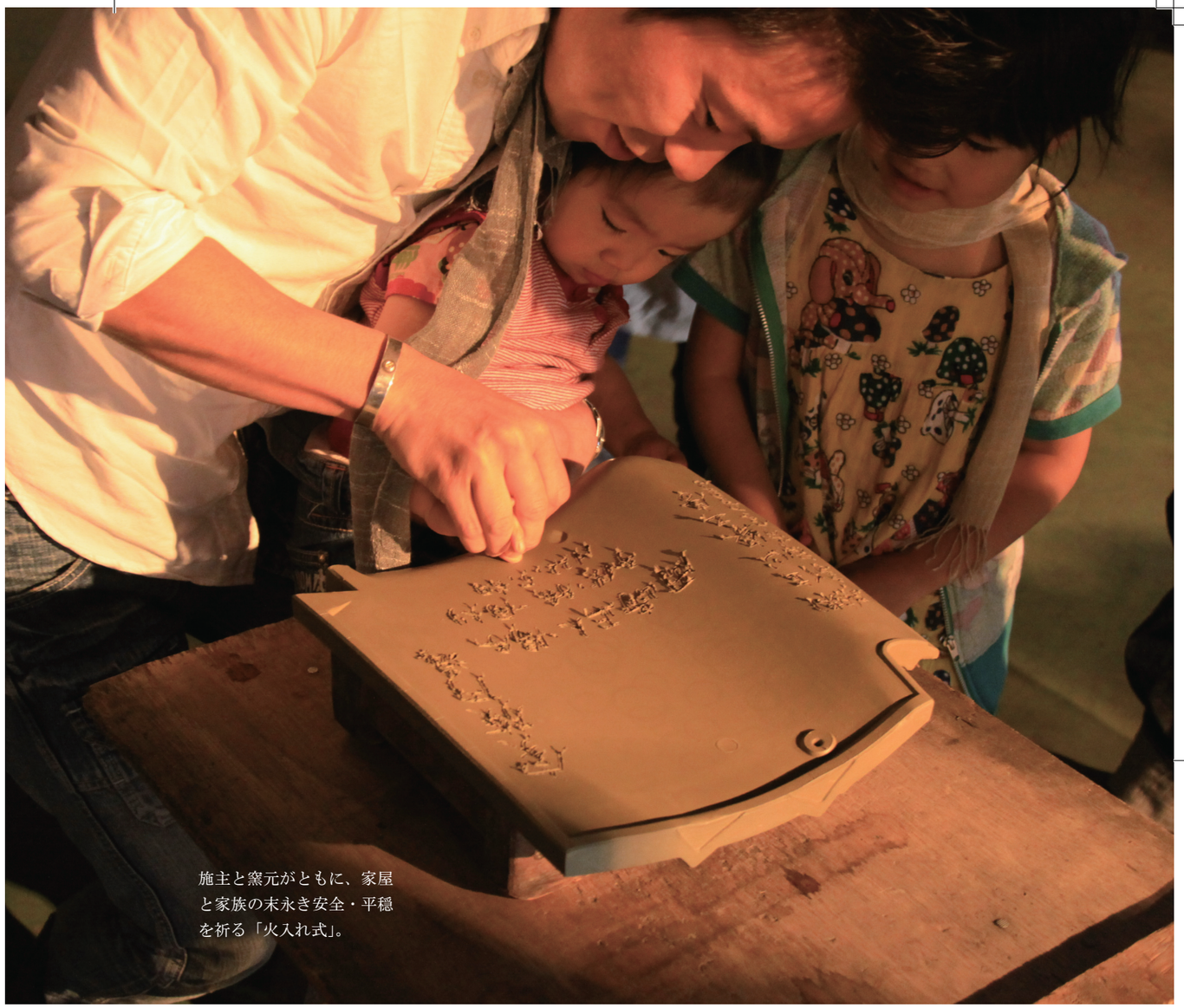
瓦1枚を、屋根に組み上げるひとつのパーツととらえてみてください。どんな屋根のスタイル・カタチにも、さまざまな趣向にも合わせることができるよう、淡路瓦には和洋なんと500種類以上の瓦があります。

自分だけのオリジナルのデザインを施した瓦をのせたい！なんてご注文に、他素材よりもリーズナブルに応えることができるのは、多数の工場がそれぞれの部位を生産する分業制で成り立ってきた瓦産地だからこそ。

淡路瓦で葺けない屋根はない、といっても過言ではありません。

Photo：Kentaro Ueda

瓦組合冊子B5_1022.indd 5-6 平成27/10/24 21:16



施主と窯元がともに、家屋と家族の末永き安全・平穏を祈る「火入れ式」。

土に生まれ、土に生き、
土に育まれ、土に還る・・・。

大自然の恵み、土を頂くことの
ありがた味・・・。
瓦を纏うことは、
そのまま土を纏うことなり。
母なる大地に包まれる喜びを知る。

ものは巡る、
ただその本質を変えることなく。
炎の力をもって
その土の表情を変えようとも・・・。
すなわちこれ
普遍の理を知ることなり。

火入れ式

一生に一度、あるかないかの屋根の葺き替えや家屋の新築。
ご家族の歴史にとって貴重な瞬間であるからこそ、瓦ができあがるそのプロセスに立ち会ってもらい、また未来の家族の平穏と安全に祈りをこめる、そんな機会としてほしいという思いから、火入れ式をとりおこなっている窯元があります。

これまでに、のべ60組の施主とそのご家族が、この火入れ式をとおして、我が家の瓦づくりに立ち会いました。
遠くオーストラリアからの施主も訪れるなど、「土とともに生きる」という瓦屋根の価値が今、淡路島から海外にまで広がっています。

瓦組合冊子B5_1022.indd 7-8
平成27/10/24 21:16

インタビュー

「瓦のある暮らし」

淡路市在住
灰谷 孝さん
灰谷 佑季さん 夫妻

interview

灰谷さんご家族は２０１３年、淡路島に移住。元・線香工場だった古民家をリフォームして暮らしています。

移り住んで一年後の春、本宅の屋根瓦を新しく葺き替えました。

屋根の葺き替えに瓦を選んだご主人の孝さんは、「島のこの環境、この風景で、瓦以外は考えられなかった」と言います。

「出張などで島の外に出て帰ってくるときに心が落ち着くのは、淡路瓦の銀色の屋根の風景のせいもきっとあると思います。」

妻の佑季さんも、葺き替えをしてから、瓦屋根の美しさに気づいたそう。「ある朝、庭先で屋根を見上げたときにふっと、瓦ってキレイだなって。それまでは瓦を意識することもなかったけれど、それからは他のおうちの瓦屋根まで見えてくるようになりました。」

そんなご夫妻にズバリ伺いました。

「瓦の家は夏すずしく、冬あたたかい」

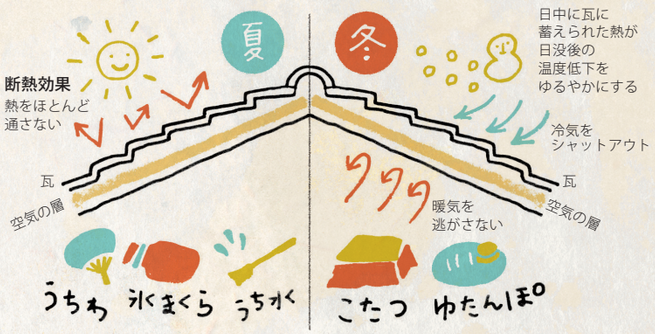
日本中の誰にも平等に訪れる、夏の暑さと冬の寒さ。

エアコンもヒーターもなかった時代、日本人はどうやって季節の厳しさをしのいできたのでしょう。

夏には、うちわ、打ち水に氷まくら。冬にはコタツや湯たんぽ。そして何をかくそう、屋根の上の瓦が、快適な暮らしの大きな助けになっていました。

その秘密は、瓦の材質とかたち。粘土を焼いた瓦という自然素材は、まずそれ自体が断熱性をもっています。そして、瓦のかたちは、瓦と屋根板との間に空間をつくります。瓦の断熱性＋瓦のかたちがつくる空気の層、この2つが、屋根が通す熱の量を少なくしてくれるのです。

> エアコンも、除湿機もなかった時代、日本人はどうやって暑さと寒さをしのいできたのか。



夏場、日差しの熱を瓦が吸収し屋内に入れないので、他素材にくらべて瓦のお家は屋内の気温が最大7～8℃も低くなるという比較結果が出ています。また冬は、瓦が昼間の日差しの熱をとりこみ、また屋内の熱を屋根から外に逃がさないので、日没後の温度低下をゆるやかに。

夏冬のきびしさは今も昔も同じ。瓦屋根は、夏すずしく冬あたたかく。おまけに冷暖房費の節約にまで一役買って、お家の中をやさしく包みます。

写真左：薪ストーブの周辺に再利用された古瓦
写真右：葺き替えた瓦屋根

「次の誰かにきもちよく手渡すべきもの」

瓦をふいてみて、どうですか？

お二人がまず口を揃えるのは、「瓦は土に還る」ということ。材料によくわからないものが入っていない、そういうものの中で暮らしていることは、身体が「嬉しい」とよろこぶような感覚を日々感じさせてくれるのだと言います。

瓦の良さは、他にもまだまだ。「別棟のガリバリウムの屋根にくらべて雨音がまったく気にならないし、それから、葺いてからの色の変化の楽しみも瓦の魅力でしょう。」

たしかに、30年40年経って本当の美しさが出るといわれる瓦屋根は、新品の状態が１００％でどんどん古くなっていくのとは、まったく異なる気分を味わわせてくれそうです。

「屋根に限らず家には、次の誰かに手渡すものという感覚をもっています。誰にひきつぐとしても、その先も続いてゆけるような家のかたちを守ってゆきたいと思いますね。」

そんな孝さんの瓦愛（？）は、とどまるところを知らず…葺き替えの際に屋根からおろした古瓦を引き取り、1ヶ月をかけ自らの手で庭の斜面に重ねて、ゆったりとした芝生に変えてしまいました。

斜面に雑草が高く生い茂っていたというお庭は今や見る影もありません。瓦の断熱・蓄熱効果を活かし、居間の薪ストーブの周囲の壁にも瓦を葺くなど、すでに瓦活用の見本市のようなお家ですが、まだまだアイデアがあり過ぎて「順番に、順番に」と心を落ち着けているくらいなのだそうで…。

灰谷邸の瓦のある暮らしは、今後もますますパワーアップし続けそうです。

瓦組合冊子B5_1022.indd 9-10 平成27/10/24 21:16

瓦屋根は、呼吸する屋根。

淡路瓦でできたグッズの中でも人気商品のひとつ、「瓦コースター」。紙や布でできたコースターの天敵といえば、冷たい飲み物を入れたグラスに生じる無数の水滴ですが、このコースターに水を垂らせてみると、あら不思議。またたく間に水滴は吸収され、表面はすぐにさらさらに。まさに最強のコースターではないですか。

このコースターが証明するのは、瓦という素材のもつ「調湿力」という性能。

屋根の上の瓦も、湿気を吸収したり発散したりして家の中の湿度を調整するはたらきをもっています。

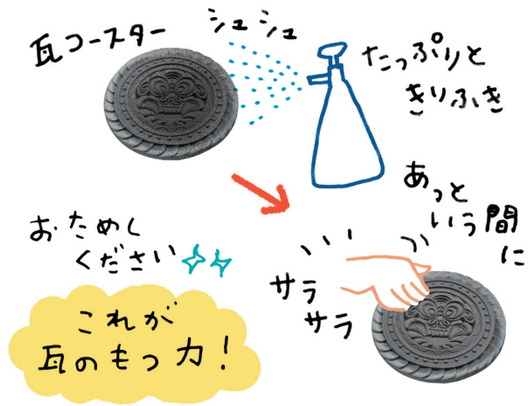
湿度の高い日本で、過剰な湿気は生活環境だけでなく建物を痛めてしまう大きな原因となるもの。

気密性の高い現代住宅では、屋内湿度のコントロールはさらに重要です。

瓦屋根は呼吸する屋根。

この調湿機能こそ、瓦がこの国で長く重宝されてきた知恵と経験のたまもの。

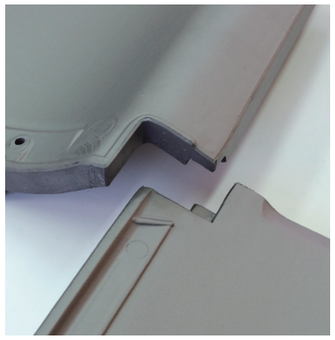
瓦コースターは、そんな瓦という素材そのものの優秀さを雄弁に語ります。

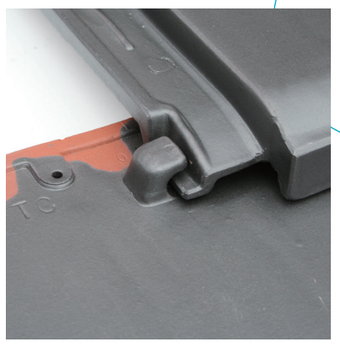


伝統にあぐらをかかない淡路瓦の最新形。

瓦は1000年以上昔からあるもの。
しかし、伝統を重んじながらも
時代の中でたゆまない進化をつづけてきました。
こんなにスゴイ、現在淡路瓦の最新形。

防災瓦





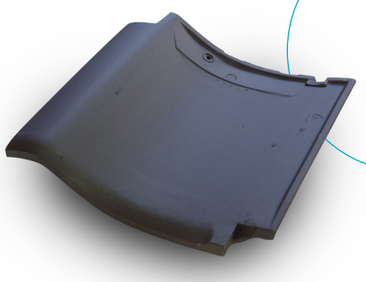
ズレない 落ちない 飛ばない

台風や地震で瓦がはずれたり飛んだり危ない、というのは過去の話です。
現在販売されている瓦の9割以上が「防災瓦」。瓦の1枚1枚が噛み合って動かない構造になっており、設計施工ガイドラインにより、50年に一度の強風にも、阪神淡路大震災クラスの揺れにも耐えられるよう設計されています。

燃えない

粘土瓦は焼き物なので、たとえ火の粉をあびても決して燃えません。（不燃材）

黒いぶし



淡路瓦の代表選手、伝統のいぶし瓦にさらに焼きを入れる工程を加えた新たな淡路瓦の新商品。
表面の炭素層が焼きつけられることで、キズや汚れが残らないようになり、瓦内部の性質も変化し、寒冷地における凍害にも非常に強い理想的な瓦になりました。

瓦組合冊子B5_1022.indd 11-12
平成27/10/24 21:16

スターバックスにも瓦!?
瓦は屋根にとどまらず。

「スターバックス淡路 SA 店」兵庫県淡路市（壁／割りはだボーダー瓦）

瓦について考えてみるとき、たとえば広辞苑には「瓦」は「粘土を一定のかたちに固めて焼いたもの」とあります。

つまり、屋根の上の瓦はその用途のひとつであり、とりわけ屋根素材としての瓦が優秀であったため、その技術が何百年もかけて発展してきたということでしょう。

瓦は、土という自然そのもののもつ生命力や環境性能をたくみに人口空間にもたらすことのできる技術。

先人たちから受け継がれてきた伝統を大切に受け継ぎながらも、その新たな可能性を、淡路瓦ではさまざまに創造してきました。

伝統産業製品としての洗練と自然素材としての安らぎを、屋内外・壁床問わず、インテリア／エクステリア／ガーデニングまで幅広く取り入れていただける多彩な「景観材」。

素材のもつ耐候性や保水性といった機能を生かしながら、景観に重厚さと生命力を生み出す「敷き瓦」。

セミ／フルオーダーで職人がていねいに手作業で制作する「表札瓦」など、施行実績は全国の個人邸、店舗・宿、公共施設や歩道にまで。

淡路島のスターバックスコーヒーにも、淡路瓦が活躍中。屋根の上にとどまらない淡路瓦の可能性はこれからも広がりつづけてゆきます。

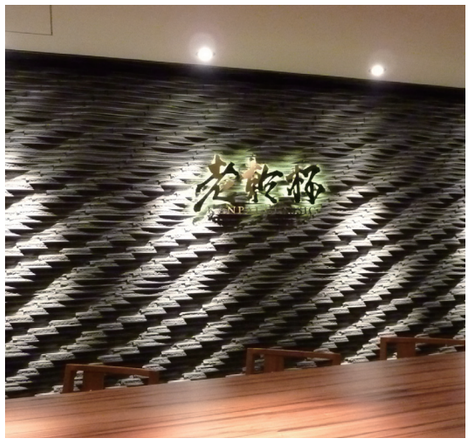
敷き瓦
ホコリがたちにくく、
気温の上昇をおさえる！

「〇〇〇〇〇〇」 〇〇県〇〇市（壁瓦／ IBUSHI BLOCK）

「リスン京都」京都府京都市（いぶし敷瓦 200 角）

表札瓦は
一点一点手作り！

「S 邸」兵庫県南あわじ市（切文字／ VASARA）



「老乾杯」台湾（壁瓦／波型割りはだボーダー瓦）

「猫美術館」兵庫県淡路市（イブシ小端立瓦）

「〇〇〇〇〇〇」〇〇〇〇〇〇（〇〇〇〇瓦）

瓦組合冊子B5_1022.indd 13-14
平成27/10/24 21:16